

虐待疑い「一時保護」に賛否の声

東京すくすく 編集チームから

家庭内の転倒事故で虐待を疑われ、子どもが児童相談所に一時保護されたケースを「子どもが頭を打ったら」(六月二十三・二十七日公開)で連載しました。取材したのは、生後十カ月の男児が、自所で母親につかまり立ちをしようとして転倒した事例。「裸に戻し転倒して頭を打つ環境自体が、安心・安全を確保できているとはいえない」とする児相の判断に、コメント欄の賛否は分かれま

仮に虐待であった場合、一斉に「何をしていたのだ」と非難を浴びるリスクを考えたなら、やむをえない措置になるのでしょうか。児童相談所が判断しやすいシステムを入れない限り、相談員を責めるのは酷だと思えます。2020/07/04 15:42 (編集)

よくに気を付けて育てるのが親の務めだ。半数は、一時保護は当然、もしくはやむを得ないとする意見でした。一方、一時保護のあり方に疑問を呈する声も。「急に親と離

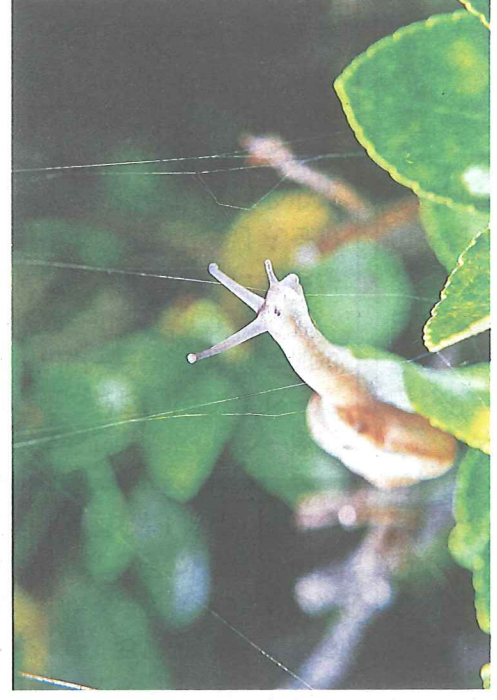
心の痛む記事です。1歳前後の子供にとつて、急に親と離れ離れになること自体が虐待なのでは...

密にして助言したりするなどできることがある。中にはこの時期の子だど安全な場所に隔離して料理をしようとする大泣きされるし、まさかつかまり立ちから大泣きになるとは思わないのでは。誰にでも起きうる事故だと思つた。子どもが健やかに育つ環境を真剣に考える皆さんの気持ちに伝わってきました。

育児を一人で抱つ時間が長かったり、他のきょうだいに手がかけたりする親も少なくありません。子どもの安全のために、親を支える制度が必要だと強く感じます。(今川綾香)

写心

テーマ=ほっこり <角出し...>



*子どもの絵「いなかき葉挿し」と写真投稿

鈴木行信 (茨城県高萩市)

視点

見張り塔から メディアの今

専修大教授・山田健太さん



インターネット被害やSNS上での書き込みが原因とみられる自殺を受け、ネット上の誹謗中傷・名誉毀損に対し、政府(総務省、法務省)・自民党・民間団体、さらに世間の声もそって規制強化を求める権限が生まれている。総務大臣は八月中に着令改正による開示対象の拡大(電話番号等の追加)を実施する意向だ。さらにパブコメを経て早ければ年内にも、

ロバイター責任制限法で定められている発信者情報の開示手続きの「円滑化」として特別な司法制度を新設して名前の割り出しを簡素化しようとしている。

しかし政府が表現の自由規制に積極的な時は要注意だ。例えば二〇〇一年の人権擁護法案では、人権侵害の事例に政治家へのつきまとい取材や

新制度利用するのはだれか

ネット規制「悪用の歯止めを」

批判報道を加えただけで、メディアを中心に強い反対のなかで廃案となっている。それ

総務省研究会では、委員の半数が議論不足と指摘する中で、政府意向に沿った結論

手軽に発信できるフリミディア表現は、行政の恣意的判断で規制されやすいメディア

に前後して実現した報道被害に対する損害賠償額引き上げにおいては、裁判所の相場表のトップに政治家が据えられることで、日本は他国に比しても政治家からの対メディア訴訟が多い国になってしまった。

が示された。政治家への批判や不正の内部告発といった表現までもが誹謗中傷規制の対象となりうるだけに、最近の法律の尊厳句になっている「表現の自由に配慮」といった文言を付加するだけで、問題が解決するとは思えない。とりやめといった誰もが

だ。電子版のとりやめもいえるSNSが同じ道を歩むことは避けるべきだろう。だからこそ、開示請求者から公人を除外するなどの「悪用の歯止め」を組み入れるなど

- 5.26 4月に設立したSNS事業者でつくるソーシャルメディア利用環境整備機構(代表理事・曾我部真裕ほか)が緊急声明発表
- 6.1 法務省が「インターネット上の誹謗中傷等に対する法務省プロジェクトチーム」を設置
- 6.11 5月に初会合を開催した自民党「インターネット上の誹謗中傷・人権侵害等の対策プロジェクトチーム」(座長・三原じゅん子)が提言発表
- 6.23 5月に設置した公明党「インターネット上の誹謗中傷・人権侵害等の対策プロジェクトチーム」が提言発表
- 6.29 IT企業でつくるセーフティーネット協会が誹謗中傷ホットラインを開発
- 7.10 総務省「発信者情報開示の在り方に関する研究会」(座長・曾我部真裕)が中間とりまとめ発表、パブコメ実施

恣意的な運用を抑える仕組みが求められている。表現活動が大きく制約されているコロナだからこそ、より自由に敏感でありたい。(隔月掲載)

太郎の国際通信



アメリカンフットボールNFLのチームで、首都ワシントンに本拠地を置く「ワシントン・レッドスキンズ」は現地に駐在した日本人の間にファンも多く、不肖、私もその一員を自任している。「レッドスキンズ」。直訳すれば「赤い肌」で、米国の先住民を指す言葉だ。チーム創設当初は別のニックネームだったが、負けが込んだので先住民の勇猛さにおやかる意味で一九三三年に「レッドスキンズ」と改名した

言葉は、今では「ネーティブアメリカン」と言い換えられるようになったが、クリフランドには「インディアン」という野球のMLBのチームが存在する。

同じクリフランドのNFLチーム「ブラウンズ」は創始者のブラウン氏の名前に由来するものだったが、本来は「褐色」と先住民を意味する言葉でもあるので、改名するよう圧力がかかっているらしい。

同様にカンザスシティのNFLチーム「チーフス」は、カンザスシティを本拠地にしたときの市長のおた名「チーフ」におやかったものと思われるが、「酋長」を意味する言葉なので、やはり改名が取り沙汰されている。さらに、タルボッシュ

の改名